社団法人

福島県鍼灸師会会報

磐梯山と檜原湖

2007.1　第79号

発行：社団法人福島県鍼灸師会　福島県郡山市安積町荒井字上屋敷 65-1

目　次

新年のご挨拶
会長　　安斎昌弘　・・・・・・・2

第２回　日鍼会全国大会参加記
学術部　　三瓶真一　・・・・・・・3

学会発表についての報告
生江　毅　・・・・・・・6

抄録　肌トラブルに対する灸治療
生江　毅　・・・・・・・8

会員のメリットとは
学術部　　三瓶真一　・・・・・・・9

公益法人制度改革について　－公益社団法人への移行－
総務部　　中沢良平　・・・・・・10

（社）福島県鍼灸師会スポーツ治療チーム活動報告
スポーツ治療チーム事務局　　遠藤賢一　・・・・・・12

甲子園へトレーナーとして参加して
佐藤今一　・・・・・・14

骨髄移植を振り返って
白井和弥　・・・・・・17

たった一度の奇跡的な不思議な治療体験
山中繁夫　・・・・・・21

新年のご挨拶

会長　安斎　昌弘

明けましておめでとうございます。会員の皆様には佳き新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から福鍼会へのご協力、ご支援を賜り有り難うございます。

昨今、健康志向の人々が増して居りますが、それらを取り巻く健康産業等も多くなってまいりました。

我々の鍼灸治療は、疾病の治療はもちろん、予防や、スポーツ障害、美容にと広い分野において地域の方々への『身・心・共有する』健康保持に貢献していることに誇りをもって頂きたい。

信頼を受ける鍼灸師は、治療院の繁栄ともなり会員一人一人のもつ意識が福鍼会の発展にも繋がるものと確信しております。

また、安定する基盤には安全な、鍼灸治療を安心して提供するため、日頃の「学術の研鑽」と「鍼灸賠償責任保険」や「日鍼会保障プラン」への加入も欠くことは出来ないものであります。会員一同が加入継続して下さるようお願いいたします。

日鍼会においても年明けとともに「鍼灸医療安全ガイドライン」を元に第４回専門領域研修を計画して居ります。

末尾になりましたが今年も役員一丸となり会の運営に取組んで行きたいと存じますので、会員の皆様の更なるご支援をお願い申しあげまして新年のご挨拶と致します。

第２回　日鍼会全国大会参加記

学術部　三瓶　真一

さわやかに澄み渡った秋晴れとなった10 月 8，9 の二日間、昨年の浜松に続いて第二回となった日鍼会全国大会に参加するため新白河発 8 時 32 分のやまびこ208 号に乗った。

すでに、郡山から参加する中沢副会長が乗車しており、すぐに合流する。

今年の日鍼会全国大会は、東京都鍼灸師会をはじめとする関東ブロックの担当で、鍼灸学校が多く会員も多い東京での開催とあって多くの参加が見込まれている。福島県からも、安斎会長や高橋相談役をはじめ数人の会員と鍼灸学校の学生数名が参加する予定だと聞いていた。

全国的に日本晴れの穏やかな陽気の連休とあって、那須塩原・宇都宮を過ぎるあたりから車内は混雑し、通路に経つ乗客も目立ってきた。そんな乗客の隙間の車窓から、遠くにかすむ富士山が見えた。

まだ受付開始前だが会場の北とぴあに着くと、広いロビーは準備のため大勢のスタッフでごった返していた。その中でも数年来の付き合いのある先生を見つけては思わず顔がほころぶ。やはり学会などは、勉強の場でもあるが交流の場でもあると思う。

大会会長でもある日鍼会相馬会長のあいさつの後、花川與惣太 東京都北区長、日本医師会 唐沢祥人会長の代理で羽生田俊日医常任理事、東京都医師会 鈴木聰男会長の祝辞と続いて日鍼会大会が開幕された。

今回の大会も非常に内容の濃い大会で、リスクマネジメントあり、専門領域での婦人科疾患あり、介護保険講座あり、実技では首藤傳明先生による経絡治療をはじめ様々な疾患、とくにスポーツ疾患関連の著名鍼灸師による実技披露が多く目をひいた。

我が青年部は昨年に引き続き、経営、とくに女性鍼灸師の開業をテーマにしてみた。年々鍼灸学校に入学する女性は多く、実に半数以上ではないかと思う。そういった鍼灸学生や、すでに免許を取得し開業を目指す女性鍼灸師をターゲットにして今回のテーマから内容を企画した。

この大会のすべての内容を見ることは出来ないので、せめてもこの青年部の企画２つだけでもお伝えしたいと思う。

第一日目

青年部経営講演　「 実録！！女性開業鍼灸師 」

講師は２人の女性鍼灸師。一人は東京で２店舗を構える先生。ご結婚され、お子様もいらっしゃる。もう一人の先生は奈良県の先生で独身ながら４人のスタッフを雇われ、成功されている先生。どちらも経絡治療を主として行う先生で、印象的にはまるっきり正反対の性格の先生のようだが、鍼灸を愛する姿勢は同じだと感じた。

１部　原　珠枝先生

東京都鍼灸師会女性部会副部会長
原　珠枝先生のご講演風景

原先生はまず浅草で、ご主人の経営する薬局の２階に開業されました。

1. 返済責任のない資金借り入れをしない
2. 運転資金に余裕を持つ(半年分位)
3. 人件費の節約
4. 治療項目を増やさない
5. 過剰な設備投資は避ける
6.

以上の事に気を付けて開業され、ほぼ順調な滑り出しをされたそうだ。その後 10 年経ち、育児などで手がかからなくなると、さらに自身の可能性を試そうと下町・浅草とはまるっきり環境の違う銀座に分院を出店する。

先生持ち前のバイタリティで分院も大いに繁盛するが、振り返ってみて繁盛の秘訣は次の通りだと語っていた。

1. とにかく清潔一番
2. 鍼数を少なくする
3. 全身治療に徹する
4. 治療時間配分
5. 予後の経過説明
6. 治療金額の設定

２部　吉村治美先生

二人目の講師、奈良県鍼灸師会学術部長
の吉村治美先生

吉村先生は、開業されてからまだ 5 年あまり。自身の開業からを振り返ると『行き当たりバッタリ、ノリで開業した』と語る。明治鍼灸大学を卒業後、病院や鍼灸院で研修した。開業への準備もそれほど計画的ではなかったが、開業直後から患者が増え続け、スタッフを雇う、治療質もビルの賃貸ながら広いフロアへ替えるなどイケイケで成長してきたという。

日々の診療に気を付けていることは、スタッフの教育に余念がないことだそうだ。水彩画の講師を呼び、週に一回治療院を終えた後、スタッフ一同と水彩画を学ぶという。治療者には芸術的なセンスが必要であり、それをつかみ取り、鈍らせないためだという。また月に数度、スタッフと無礼講の飲み会を行い、経営者とスタッフの温度差をなくすようにつとめている、と語る。そういった『和』を求める心が盛業に結びついているのではないかと感じた。

第二日目

鍼灸院開業への道しるべ

鍼灸師・中小企業診断士　岡田高

大会二日目は、鍼灸師でありながら中小企業診断士の資格を持つ岡田高先生の講演を行った。

開催地が鍼灸学校の林立する東京と言うこともあり、これから開業する学生をターゲットにしたマニュアルのような企画も青年部では用意した。1日目は女性鍼灸師の開業をテーマ、特に開業経験談として先輩鍼灸師の話をメインにしたが、二日目は実際に開業を目指すマニュアルとして中小企業診断士としても活躍する岡田先生のご講演を用意した。

岡田先生のご講演は、まず開業鍼灸師の使命とは、また鍼灸師を目指すものの心のあり方からお話しに入り、実際に開業に至るまでの準備として、開業地の場所選びや資金作り、また固定患者を掴むテクニックなどを詳細な資料をもとにお話しされた。

様々な鍼灸院を見てきて、また鍼灸院に限らず、技術を売り物にしている業種の経営を診断してきた先生は、**『ハードよりもソフト、何よりも大切なものは“院長力である”』**と鍼灸院の経営について言い切っていた。

院長力とは、**１．経営能力　２．臨床能力　３.人間性**　この3つの総合をいい、どれが欠けても治療院の発展はない、とのことだった。

二日間を通して、立場上青年部の企画に入り浸っていたわけであるが、これから開業を目指す学生をターゲットにした企画であったにもかかわらず、会場内には多くの開業された先生がいて、少なからず有名な先生もおられた事には驚いた。

景気回復と言われる昨今だが、整体など無資格者に喰われている鍼灸院も多いと聞く。開業されて立派にやっておられていても、こういった場で学生に紛れて初心に返ることも、院長力を磨く事なのかも知れない。

学会発表についての報告

生江　毅

平成18年9月17日(日)～18日(月)、第40回東北鍼灸学会学術大会（総勢70人）におきまして、一般口演と実技供覧（第5席）の発表を行ないました。会場は秋田県生涯学習センター分館のジョイナスというところです。

秋田市までは、一台の車に5人で相乗りしました。

車中では臨床の話から世間話まで、話が盛り上がり楽しい時間を過ごしました。秋田市は台風の影響で17日は曇り、18日は風雨で天候が悪かったです。今回の台風、九州ではひどい被害だったようです。

1. 日程表

月日	9月17日	9月18日
午前	発 5:30　一寸法師はり治療院駐車場　集合 ＜東北道＞郡山南IC～北上IC経由 ＜秋田道＞秋田中央IC 着 11:00	特別講演　経筋治療 10:30～12:00
午後	受付開始　12:00 開会式　12:45 一般口演　13:15 実技供覧　16:00 懇親会　18:00 ナイトセミナー　20:15	発 13:00　秋田中央IC 着 17:30　一寸法師はり治療院 解散

2. 一般口演

一般口演では「肌トラブルの灸治療」という題で尋常性ざ瘡の症例を発表しました。夏期講習会で予行練習をやっていたおかげで、あまり緊張することなく落ち着いて発表することができました。(予行練習時にいろいろとアドバイスをしてくれた先生方ありがとうございます。) 一緒に同行した先生に「声を大きくゆっくりとしゃべりなさい」といわれていたので、声は大きくしゃべりましたが、ちょっと早いペースになってしまい、練習よりは時間が短くなりました。予想していた質問も会場からは出ず、ほっとした反面ちょっと残念でした。

3. 実技供覧

実技は段取りを考えてなかったので、焦ってしまいました。緊張からしばし無言の施術をしてしまい、会長や他県の先生方が途中で、質問をしてくれたり、話しかけてくれたり、助けてくれたのでとっても助かりました。

実技を始める前にすこし説明して、しゃべりながらゆっくりと施術していけばよかったと思います。

4. 懇親会

懇親会では学生以来会ってない先生と再会し（7年ぶりぐらい）、楽しい夕食となりました。私をみて、髪型も変り、感じも変わって気づかなかったらしいです。

5. ナイトセミナー

ナイトセミナーは「経絡体験」という内容で、福鍼会相談役の高橋先生が実技を行いました。ベッドを三台ならべて、他県の先生方に次々と交代に刺鍼していく姿がすばらしかったです。

皆さん酒気を帯びて、鍼を受けていたので、心配しましたが、「酔いが醒めた」という先生もいてびっくりしました。私もベッドに空きがあったら、横になって受けたかったのですが、大人気で入る隙がありませんでした。

6. おわりに

今回、私が学会発表で感じたことは、スライドのわかりづらさです。私のスライドの場合は、症例の写真不足を感じました。他県のスライドは、一枚のスライドに情報量が多すぎて見づらく、後ろに座っているとまったく読めませんでした。

また、私の場合、以前発表された症例や内容がわからず、準備不足だったと思います。web サイト内で過去の東北鍼灸学会の発表抄録が検索できたら、以前にでてない症例を検索するのにも便利だと思います。また、来年以降の先生が同じ症例で発表するにしても、「何年前の何先生の発表では、こうなりましたが、私の結果ではこうなりました」と以前に出た症例でも、再度、新しい発表ができて聞き手も面白いのではないかと思います。

最後に、東北鍼灸学術大会において、発表の機会を与えてくださった先生方にお礼を申し上げます。

抄　録

肌トラブルに対する灸治療

生江　毅

【はじめに】昨年の春、ニューヨークでは美容の顔鍼「cosmetic acupuncture」が流行しました。中国では 80 年代から中医美容学が研究され、海外の鍼灸大学でも教育されていますが、日本での美容鍼灸の動向としては、鍼灸師の美容に対する関心は非常に高まっていますが、全国的には体系化されておらず、繊細な手技と微細な鍼を使用しているにもかかわらず、美容分野に日本の鍼灸の特色が取り入れられていない現状があります。
そこで今回、女性の肌トラブルに対して施術した灸治療の症例を発表して、鍼灸の美容分野の現状と今後の可能性について検討したので報告します。
【症例】26 歳　女性　事務職
【初診】平成 17 年 9 月 29 日
【主訴】顔のニキビ
【現病歴】4 年前から額や頬、顎を中心にニキビが目立つ。月経が遅れると特に悪化して増える。仕事や日常生活では特に強いストレスを感じることは少ない。夜は 11 時頃に寝て朝 7 時すぎに起床する。洗顔は朝と夜に入念におこなう。髪の刺激を少なくするために 3 年前から髪を短くしている。2 年前から皮膚科を受診し、ケミカルピーリング治療を試すが 1 ヶ月通って症状が悪化したので中止した。化粧は薄くするように注意している。
【診察所見】望診：体型は中肉中背。肌は白い。顔全体かけて赤みを帯びたニキビがある。
聞診：声に力があり。はきはきと受け答えする。
問診：月経前に便秘になることが多い。よくニキビに対して勉強し、生活習慣を改善するように心がけているようだ。
切診：手掌、三陰交穴から下のあたり冷えている。大椎穴付近および腰仙骨部にうぶ毛が多い。下腿全体にうぶ毛がある。
【治療および経過】手脚の冷えやホルモンバランスを調整することを目的に施術した。
1 週間に 1 回と月経前に来院してもらう。深谷灸法の中条流子はらみの灸と左右次髎穴の硬結に取穴した。
子はらみの灸穴には半米粒大で痕が残らないように 7 分灸で 30～40 壮熱がとおった感じがあるまで。左右の次髎穴に同じく半米粒大で 7 壮。
10 月 20 日（4 回目）治療翌日に月経が来て便秘が解消されたと喜ぶ、ニキビの赤みがとれてきた。
12 月 1 日（12 回目）額や頬のニキビがほとんど消えた。顎のまわり。口の周りに少しある。
1 月 19 日（18 回目）顔全体でニキビが 4 つほどになってニキビが気にならなくなると喜ぶ。下腿のうぶ毛が薄くなり、手脚の冷えが感じなくなってきたので、月経前だけに来院してもらうことにした。
【考察】この症例では内科的に取穴したが、本来、灸治療は江戸時代まで日本の外科的治療の中心であり、疣贅（いぼ）、鶏眼（魚の目）、胼胝（たこ）、ホクロ、肝斑（シミ）、腫瘍などの肌トラブルに対して治療する場合に、治療の痕を最小限に抑える優れた治療法だと考える。
【キーワード】美容鍼灸　外科的治療

会員のメリットとは

学術部　三瓶　真一

今年度から会費が値上げされ、4 万円となりました。

みなさんは毎年度の会費を納入されるとき、会員のメリットについて何かしら思うことはありませんか？

4 万円に見合うメリットが福鍼会に所属していることで得られているのだろうか？と、疑問を感じる方も多いのではないでしょうか？

会員であることのメリット作り、また会員に対するサービスの提供は、会の舵取りをする側ではいつも頭を悩ませる事の一つです。

日鍼会のアンケートでも、『入会の理由』として必ず上位１～２位にあがるのは『鍼灸師賠償責任保険へ加入できるから』です。確かに起きてしまった医療事故に対する何かしら日頃からの準備は非常に大切ですが、逆に、安全で効果的な治療サービスを患者さんに提供するために、最新の医療情報や鍼灸に関連する専門分野について定期的に学ぶことはもっと大切なことではないでしょうか？

福鍼会では今後、よりいっそう質の高い講習会を開催し、会員と会員外の鍼灸師の差別化を図ります。また春・夏・冬の定期講習会をすべて受講された会員の先生には、福島県鍼灸師会会長名での年度ごとの修了証の授与なども検討しています。

年々鍼灸治療の需要が高まる一方で、個々の鍼灸師間の学術レベルの格差が問題となっております。

その中で、鍼灸治療を希望する一般市民が会員のみなさんの治療院を安心して一番先に選んで頂けるよう、会員のみなさんに対しての学術活動を充実させ、会員外の鍼灸師との差別化を図ることも考えております。

会員のみなさんは、黙って待っていても受けられるメリットではなく、積極的に定期講習会などへ参加し『学術・差別化』といったメリットをぜひ手に入れてください。

公益法人制度改革について

― 公益社団法人への移行 ―

総務部　中沢 良平

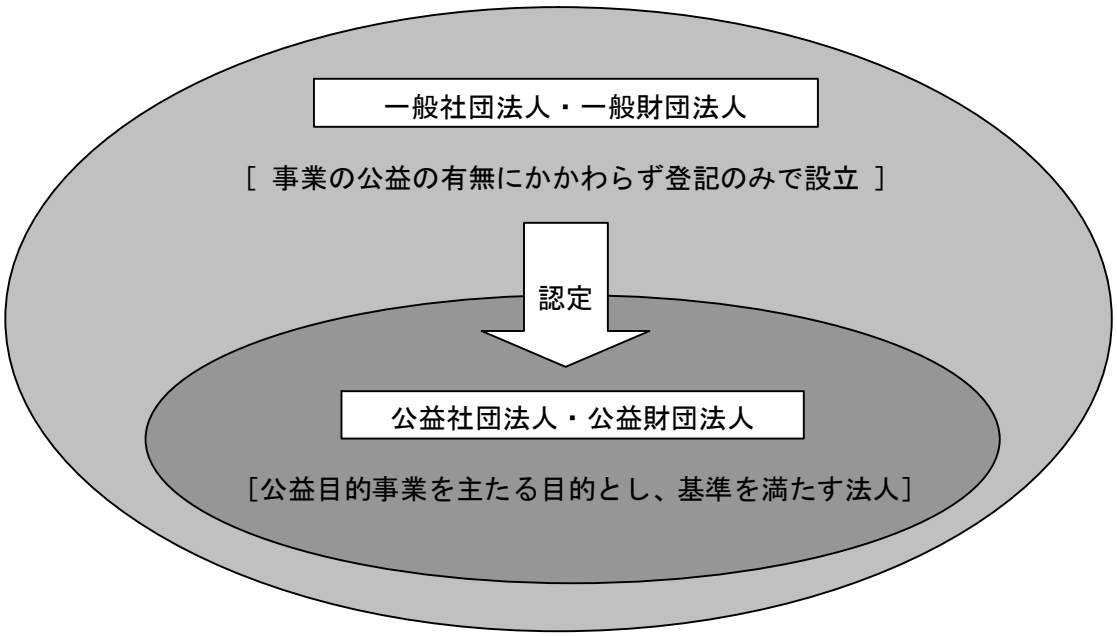
［公益法人制度改革とは］

現在国は、民間非営利部門の活動の健全な発展を促進し、現行の公益法人制度に見られる様々な問題に対応するため、従来の主務官庁による公益法人の設立許可制度を改め、登記のみで法人が設立できる制度を創設するとともに、そのうちの公益目的事業を行うことを主たる目的とする法人については、民間の有識者による委員会の意見に基づき公益法人に認定する制度を創設しました。

［福島県鍼灸師会は公益法人への移行をめざします］

新制度では、一般社団法人と一般財団法人が、法人としての設立が登記のみでできるようになります。その一般社団法人・一般財団法人のうち公益法人として設立を希望する法人に対して、民間有識者による委員会の意見に基づき行政庁が認定します。

新制度における一般社団法人・一般財団法人と公益社団法人・公益財団法人の関係



［主な認定基準と欠格事由］

公益社団法人になるには、認定基準があります。

- 公益目的事業を行うことを主たる目的としているか
- 公益目的事業に係る収入がその実施に要する適正費用を超えることはないか
- 公益目的事業比率が 50/100 以上の見込みか
- 遊休財産額が一定額を超えない見込みか
- 同一親族等が理事又は監事の 1/3 以下か
- 認定取消し等の場合公益目的で取得した財産の残額相当額の財産を類似の事業を目的とする他の公益法人に寄贈する旨を定款で定めているか　等

欠格事由もあります。

- 暴力団員等が支配している法人
- 滞納処分終了後 3 年を経過しない法人
- 認定取消し後 5 年を経過しない法人　等

これらが、都道府県の合議制の機関で諮問され、答申を受けるようになります。

この新制度の法律は、すでに平成 18 年 6 月 2 日に公布されており、法律の施行は平成 20 年 12 月 1 日が有力視されています。移行期間は 5 年間で、法律の施行以後、福島県鍼灸師会もこの間に公益社団法人に移行する手続きをとります。

現行の公益法人は、施行日以後、一般社団法人として存続することとなりますが、一般社団法人の適用に当たっては広範な経過措置が設けられており、実質的には、現行の社団法人と変わりません。このような法人を法律上「特例民法法人」と呼んでいますが、通常の名称はこれまでどおり「社団法人」でかまわないということになっています。従いまして、福島県鍼灸師会でも、公益社団法人に移行するまでは今まで同様「社団法人福島県鍼灸師会」という名称でいます。「特例民法法人福島県鍼灸師会」と呼ぶ必要はありません。

［認定を受けると与えられる効果］

まず、「公益社団法人」という名称を独占的に使用できるようになります。また、公益法人並びにこれに対する個人及び法人に関する税制の措置を受けられるようになります。ただし、遵守事項として、先の認定基準を守らなければなりません。

［移行の認定の申請までにすべきこと］

新たな公益社団法人にふさわしい法人として、公益認定基準を満たすことができるよう、事業内容、財産内容や組織を見直します。現在の福島県鍼灸師会は、これらの問題をすべてクリアしており、移行についての問題はありません。

また、公益社団法人になった場合は、このように定款を変更するという「定款変更案」（法人名称の変更、目的や事業内容の変更、組織の変更など）を、総会の決議を経るなどして、法人として正式に意志決定しておくことになります。従って、平成 21 年の通常総会では会員の皆様からのご意志を確認し、この公益社団法人への移行をめざしたいと思っています。

［最後に］

民法上の法人は 100 年の歴史を有し、いま改革の時期を迎えています。この時期を会員の皆さんと一緒に乗りきり、公益社団法人へと移行しますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

(社) 福島県鍼灸師会スポーツ治療チーム活動報告

スポーツ治療チーム事務局　遠藤 賢一

「(社) 福島県鍼灸師会 スポーツ治療チーム」(以下、スポーツ治療チームと略す。)は、本年も、4 月 29 日(みどりの日)に郡山市開成山陸上競技場で開催されました「郡山シティーマラソン大会」におきまして、ボランティア治療という形で参加し活動をしてまいりました。さらに、郡山市内で開催される「少年サッカー大会」主催者から、昨年と同様のトレーナールームの開設依頼があり、この依頼を、“鍼灸”の普及活動のチャンスと考え、ボランティア治療を行ってまいりましたので、ご報告いたします。

1.　第 13 回 郡山シティーマラソン大会

今年も、参加ランナー3,000 名を超える大会になり、招待選手に現役バラエティーランナーの松野明美さんを迎え、桜の花が少し舞う中で、大盛況の大会開催となりました。

スポーツ治療チームは、今大会で 12 回目の参加となり、その必要性は、回を重ねるごとにマラソン大会参加ランナーに着実に浸透してきていることが感じられました。今年も、ボランティア治療のトレーナールームが、スタート地点のすぐ横となったために、ボランティア治療の収容人員(救護処置人数)は、100 名を超える忙しいものとなりました。

今回のスポーツ治療チームは、「鍼灸師中心で頑張ろう!」ということで、安斎昌弘会長をキャプテンに、21 名（昨年 15 名）の鍼灸師と、「どうしてもどうしても参加したい!!!」という、熱烈な意欲のあった鍼灸専門学校生 10 名（昨年 15 名）の計 31 名で大会に臨み、6 歳から 65 歳という幅広い年齢層を治療しました。このように、いろいろな年齢の方の治療を一日で体験できるのも、スポーツ治療チームならではの魅力だと考えております。また、各先生方の「技」にも触れる機会となり、切磋琢磨できた約 6 時間だったと考えます。

2.　第 6 回 2006 ゴールデンエイジ民報ゴデーレカップ

8 月 26 日(土)･27 日(日)に郡山市の西部サッカー場において、少年サッカー大会が開催されました。

「ゴールデンエイジ民報ゴデーレカップ」という大会で、福島民報社と郡山のフットボールクラブ ゴデーレという少年サッカーチームが主催しています。今回が、6 回目の開催で、後援には、毎年、郡山市教育委員会をはじめ、ジェフユナイテッド市原･千葉などの名前もありました。実際に、

ジェフユナイテッド市原・千葉ユースチーム監督の菊地 功さんのサッカー教室も開かれました。

参加チームは 24 チーム。県内は、会津、中通り、浜通りすべての地区からの参加で、栃木県の西那須からのチームも参加しておりました。

大会名にある“ゴールデンエイジ”とは、「一生の中でさまざまな技量の即座の習得が最も適した年代」を意味するそうで、小学校４年生前後がその代表的な年代といえるそうです。

スポーツ治療チームは、27 日(日)にボランティア治療活動を行ってまいりました。大会会場には、今年も約 500 名が詰め掛けておりました。2 回目ということもあり、治療チームの存在を知っている参加者も多数おり、ボランティア治療の収容人員は 80 名を超え、昨年を上回る人員でした。

治療をしていて気になったことは、やはり昨年と同様に“成長痛”や“けが”を抱えながらもプレーをしている子供たちがいることでした。しかも、昨年より若干増加傾向にあるように感じました。このような子供たちに少しでも力になれたかなと考えると、これからも継続して行きたい活動のひとつと考えます。

スポーツ治療チームは、カナケンさんや会員の先生方、学生ボランティア、そして、家族の方のご協力によって支えられております。地味ではございますが、この活動が、少しでも「鍼灸普及」と「組織拡大」に役立つことを願って、これからも歩んで行きたいと考えておりますので、ご支援、ご指導、よろしくお願い申し上げます。

今年も、
“継続は、力なり”

甲子園へトレーナーとして参加して

佐藤 今一

今回、縁がありまして甲子園大会へトレーナーとして参加してきました。これからもトレーナーとして帯同する先生もおられるかと思います。参考になればと思い、投稿することにしました。

今年度の福島県代表は県立光南高校です。7 月 30 日に代表が決定し、翌日には選手が治療に来院しました。県大会で何試合もするのは選手には相当負担がかかるようで、腰が痛くてバットもまともに振れない者、肩が痛い者、下肢が疲労でパンパンな者、よくこれで試合が出来たなーと思うぐらい負傷者だらけです。日頃から当院で治療をしている選手たちに、「先生も甲子園まで治療に来てもらえませんか？」「気持ちは嬉しいけど、君たちに頼まれてもなー」と答えたところ、「監督からお願いしてきてくれと言われました」が甲子園へ行く発端となりました。翌日には正式な打診がありトレーナーとしての帯同が決まりました。

打診のあったのが 8 月 1 日、選手の出発が抽選日前日の夕方（2 日）、トレーナーの出発は 3 日の午前中。とても慌ただしい日程です。事実、航空機のチケットは当日朝に学校の事務室まで取りに行く状態。選手たちの宿泊先は航空機搭乗直前に知らされるような状態でした。初出場ということもあり、学校関係者もパニック状態のようでした。

到着したのは大阪中之島ＮＢＣホテル。宿泊先について少々説明します。福島県代表チームは毎年このＮＢＣホテルとなるようです。もう専属契約がしてあって代表校が独自にホテル探しをしなくてもよいそうです。このホテルへは宮崎県も毎年宿泊す

るようです。今年の宮崎県代表は延岡工業でした。ホテル自体は巨大なビジネスホテルって感じですね。選手たちはほとんど個室です。個室といっても小さな部屋でしたが選手には好評でした。また、トレーナーは専用のトレーナー室が提供されます。光南高校のトレーナー室の真向かいは延岡工業のトレーナー室となっており、トレーナーとしてのライバル意識がメラメラと燃え上がります。トレーナー室は 6 畳ぐらいの和室です。そこへ持参した携帯ベットを置くと、あとはホテルの布団を２つほど並べるのが精一杯でした。

外気は 37°あり、じっとしていても汗が流れ落ちる状態ですのでトレーナー室のクーラーは 27°設定でフル回転ですが一度も運転停止することはありません。いかに暑いかがお解りかと思います。いざ治療する時間になれば、選手が部屋へ入りやすいようにドアは開けっ放し、治療中の選手に冷風が当たって風邪でも引かせたら大変なのでクーラーは停止させます。この状態での治療は治療者にとっても地獄でしたね。直ぐに汗だくになってしまうので洗濯をしたいのですが、ここにホテルの問題点があ

ります。ホテルに設置してある洗濯機は 3 台。これを 1 チーム 35 人、2 チームで 70 人の選手が使うのですからどう考えても不足です。

大阪のど真ん中にあるオフィス街のホテルなので、ショップなどはなかなか見つかりません。ですが、徒歩で 15 分ほど歩くとコンビニがあったり、もう少し歩くと大きめのコインランドリーがあったりします。レンタカーなどを借りてランドリーをピストン輸送すれば洗濯で気をもむこともなくなり、選手の負担もずいぶん軽くなるだろうなーと感じました。

次にトレーナーのスケジュールについて説明します。光南高校は抽選で 2 日目の第一試合となりました。それにより起床時間も決定です。朝の 3 時半に起床、4 時 15 分に朝食です。朝食前に選手は体操・散歩・素振りなどをします。監督部長は顔を出しませんがトレーナーとして選手の状態チェックに付き合います。食事のときは選手は丸テーブル、その他関係者はひな壇のように一列に並び選手と向かい合わせのテーブルです。そのひな壇へは監督・部長・引率教師 2 名・スポーツメーカー派遣者・朝日新聞記者・旅行代理店担当者・そしてトレーナー。なかなか食事も喉を通りにくかったですね。

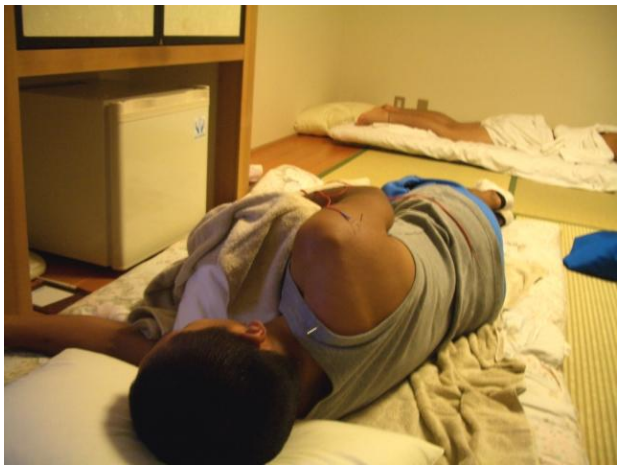
6 時にはバスで午前の行動開始です。午前中は開会式のリハーサルを観戦したり、指定練習場へ行ったりします。リハーサルを観戦すると言っても甲子園球場へ到着してから 2 時間ぐらいは待たされます。練習場へ行く時には、トレーナーキットを持参して炎天下の中で練習を見続けます。練習時間は 2 時間。次々と代表校が交代で練習します。

夕方にホテルへ戻ります。選手は一斉に洗濯を開始しますが、トレーナーは晩飯前のわずかな時間が自由時間です。この時間にホテル付近を探検していました。晩飯が終わるとミーティング時間を除き、治療時間となります。11 時の消灯時間まで治療は続きます。時間になってもなかなか選手は自分の部屋へ戻らなかったりするので就寝時間は 12 時を過ぎてしまいます。なかなかハードなスケジュールでした。

4 番バッターが決勝戦で腰を捻ってしまい思うようにバットが振れない。またキャプテンが抽選日当日の甲子園練習で手首を捻ってしまいバットが振れない。とにかくこの 2 名をなんとかして欲しいと言うのがトレーナーへの監督の要望でした。手首を痛めた選手に関しては今更レントゲンを撮って骨折かどうか診断して貰ってもしょうがないので、監督との協議にて治療とテーピングをする事で最善を尽くすことにしました。テーピング前には蚊が止まるようなスィングしか出来ないのにテーピングを施すと 7 割ぐらいで振れると、選手も出場できそうな見通しに喜び満面、監督もホッとしたように目尻が緩んでいます。トレーナーとしても晴れ晴れとした気分でした。

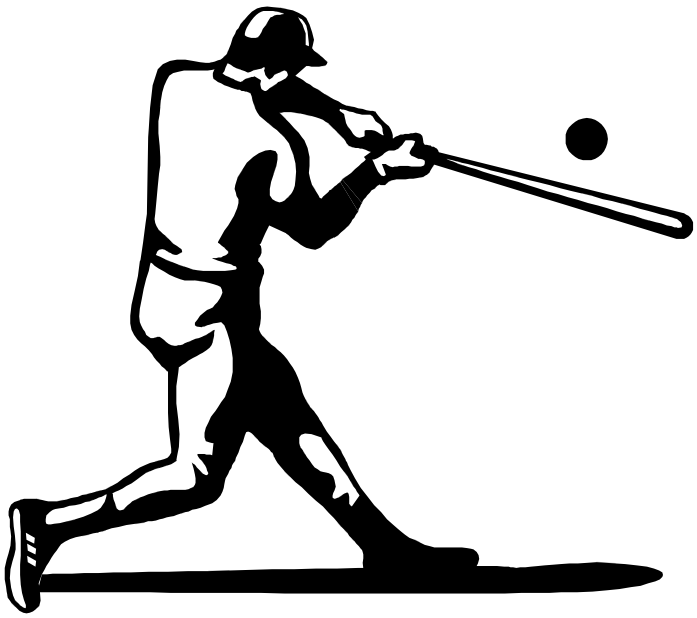
試合はあっけなく初戦で敗退してしまいましたが、手首を痛めて出場の危ぶまれた選手がテーピングなしで出場できたこと、4 番バッターがスタンドまで音が聞こえそうな豪快な空振りをした時、何とも言えない

喜びで一杯でした。



　最後に、トレーナーとしての帯同って謝礼とかどうなっているのだろうと思う方もおられることと思います。私の場合は治療者 1 名分の航空運賃、2 名の宿泊費は依頼者負担。一緒に連れて行ったスタッフの航空運賃、機材運搬代、材料費購入代など全て自腹でした。謝礼は今までのところ一銭もありませんが、5 日間の帯同で金銭には代えられない貴重な経験をさせて貰ったと感謝しております。

最後に持参物についてのアドバイス。
①治療器具…携帯ベッド、布団だけで治療していると腰が痛くなります
②テーピング類…テーピング、各種サポーター、コルセット、湿布など多めに
　現地での追加購入は難しいです。
③タオル類…ホテルのタオルだけでは不足です、バスタオル大が 5 枚は必要
④衣服…1 日 3 回はＴシャツの着替えが必要、ジャージの半ズボンがベスト
　洗濯機は使えないと思ってください。早急にコインランドリーを発見できれば悩み解消。



骨髄移植を振り返って

白井　和弥

今年の春、私は骨髄ドナーとして骨髄提供をしました。生まれてから今に至るまでさしたる大病を患わず過ごしてこられたもので、私にとっては初めての入院、初めての手術室、初めての全身麻酔などさまざまな貴重な経験をさせてもらいました。

さいわい何事もなく無事骨髄採取を行えたので、ここに私の体験記と感想を述べてみたいと思います。

まずは骨髄移植の概要をまとめてみます。

1.　骨髄移植は病気に冒された造血幹細胞を健康なものに置き換える治療法です。病気によっては化学療法や免疫抑制剤などで治癒可能となりましたが、骨髄移植でしか治癒が望めない患者が大勢います。主な病気としては慢性骨髄性白血病、急性白血病、重症再生不良性貧血、免疫不全症、一部の先天性代謝異常症などがあります。

2.　健康な骨髄液を提供する人が骨髄ドナーです。骨髄移植は皮膚から専用の針を刺し、注射器で骨髄から吸引した骨髄液を、数時間かけて患者の静脈へ点滴で注入するものです。骨を切り取って移植するものではありません。

3.　患者には骨髄移植の前に 1～2 週間かけて、大量の抗がん剤投与や、全身への放射線照射が行われます。病的な細胞だけでなく正常な骨髄細胞も完全に破壊されます。これを移植前処置といいます。前処置後は血液中の白血球が極端に減少するため、抵抗力を失って感染症が起こりやすくなります。このため患者は、移植前処置の前後から正常な血液細胞が造られて安定するまで、滅菌消毒された塵や細菌のない清浄な空気が流れる無菌室で過ごします。

4.　患者にとって移植を行う時期は重要なポイントであり、病状の推移をみながら決められます。また、移植施設では限られた無菌室やスタッフのスケジュール調整も必要です。

5.　移植が行われても、拒絶反応や移植されたリンパ球が患者の身体を攻撃するGVHD(移植片対宿主病)、重症感染症などにより早期に死亡することがあります。また、骨髄が生着して回復した後に白血病などのもとの病気が再発する可能性もあります。骨髄移植ですべての患者が治るわけではありません。

さて次ですが、骨髄移植のキーポイントとして”HLA”があります。

1.　HLA が患者と一致した人がドナー候補者として選ばれます。赤血球の血液型に、A、B、AB、O 型といった型があるように、白血球にも血液型があります。この型のことを HLA(Human Leukocyte Antigen)、ヒト白血球抗原または組織適合抗原といいます。HLA には、A 座、B 座、DR 座などがあり、それぞれが数種類から数十種類あって、その組み合わせは数万通りの型があります。

2.　骨髄データセンターにてHLAのA座、B座、DR座の各3対6抗原を検査し、合計6抗原、場合により5抗原が患者と一致するドナーを探します。一致した場合に、確認検査にてHLAをさらに細かく分けたDNAタイピングという方法で検査を行い、より患者のHLA型に近いドナーを探します。

3.　HLA型は対になっており、両親から片方ずつ受け継ぐため、兄弟姉妹間では最大4種類に分かれ、4分の1の確率で一致します。日本では、血縁者の中にHLAの一致する人を見つけられる患者は３０％位です。

4.　血縁者の移植でもHLAが不一致のときはGVHD（ドナーのリンパ球が患者の身体を攻撃する病気）や拒絶反応を起こしやすくなります。HLAが一致していれば、非血縁者からの骨髄移植でも、血縁者からの移植に近い成功率が期待できます。

5.　日本人はHLA型が似ている人が多く、ドナー登録者が20万人を越えた現在、骨髄移植を必要とする患者の約90％がHLA適合者を見つけることができるようになりました。さらにDNAタイピングにより遺伝子レベルでも適合するドナーが選ばれるために、より多くのドナーが必要とされています。

6.　またドナーになる条件として、20～54歳という年齢、健康状態に問題がない、ほかに骨髄移植への理解と家族の同意が必要です。

というわけで、ここからが私の体験談。

最初に骨髄移植推進財団から書類が届いたのが昨年の9月でした。実際に移植を行ったのが今年の4月なので、半年以上前から準備が始まったわけです。翌10月、調整医師のもと、確認の検査と骨髄移植に関する細かい説明を受けました。私は職業柄か、医師の説明も検査の内容もすんなり頭に入りましたが、医学的知識が少ない人には難しい説明とも思いました。

月日は流れ今年の年明け、最終同意面談。この最終同意面談で同意書に署名・捺印すると同意を撤回することができなくなります。この最終同意をもって、骨髄移植を受ける患者の移植前処置のスケジュールが組まれるわけで、ドナーの勝手な都合でキャンセルすると患者が死亡してしまう事態に陥ることもあるわけです。家族の同意も必要なため、私は母を連れてこの最終同意面談に望みました。

私はドナー候補者の一人であったので、もしかすると他にも何人かのドナー候補者がいたのかもしれません。ただ、「他にも候補者がいるのなら私でなくとも」と思われてしまう人がいるので、候補者の数は教えてもらえません。ドナー候補者がたった一人だとしても同じようです。

この面談の前にも何回か骨髄移植推進財団の方とコンタクトを取り、私自身の気持ちや体調を確認してきました。私が最も気にしていたのは入院日数。通常は3泊4日の日程で骨髄移植をするとのことです。というわけで、職場の同僚には申し訳ないが休暇をとって移植に望まねばならなく、何とか仕事に支障をきたさずにいきたかったわけです。

その辺を渋っていた私でしたが、（何人いたかはわかりませんが）他のドナー候

補者よりも私の方がより成功が期待されるという理由で、最終ドナー候補者となったわけです。医師の説明ですと、やはり HLA が最も一致するのが私でした。

移植予定日の一月前、3 月に健康診断。血液検査・尿検査・心電図など一通り。結果は問題なしで、あとは体調を崩さずに移植日を待つことになりました。もうひとつ大変だったのが、この検診のほかに自己血採血を 2 回に分けて行わなければならないことでした。予定では 1,200cc の骨髄を採取するため、術後の貧血などを抑えるのにあらかじめ自分の血を抜いておいて、それを後で自分に戻すためです。私は知らなかったのですが、今の手術では自己血輸血は一般的によく行われているそうです。ただ、採血をしにわざわざまた休暇をとって大学病院まで行かなければならないこと、それが面倒だし職場に迷惑をかけている気がして不満でした。最寄りの病院や献血センターで採血したものを、手術する大学病院に持っていってもらえれば手間暇はかからないのに、と思いましたが輸送や管理に問題が生じると大変なので、やはり私の都合どおりにはいきません。

そして入院。1 日目は確認検査。2 日目は手術。3 日目は休養。4 日目に退院。1 日目は退屈でしたが、忙しかったのが風呂に入ることでした。入院患者が多いため、一人ひとり入浴時間が決められています。私も退院するまで風呂は駄目とのことで、普段家では長湯なのですが急いで汗を流しました。

2 日目の手術。手術室に入りストレッチャーに寝て、麻酔医に眠らされて、気付けば病室のベッドの上。気付けば下着がいつの間にか T 字帯(ふんどし)に穿き替わっていたのに驚きました。けれどもそんなことよりももっと驚き辛かったのが、術後の排尿。麻酔から覚め頭もようやくすっきりしてきたので、ふらふらしながらも点滴台を引っ張りまずトイレへ向かいました。すると痛い。痛くて排尿ができない。これは困った。しかし排尿しないのも嫌なので、涙をこらえ壁に頭をつけながらようやく完了。笑い話に聞こえるでしょうが、これは尿道カテーテルを通された男性でないとわからない苦痛です。私も以前聞いたことがありましたが、まさかこれほど痛いものだとは知りませんでした。4～5 回目くらいは涙ながらの排尿で、それ以降は少しずつ我慢しなくてもいいような痛みになってきました。最終同意面談で色々な手術中、手術後のリスク・合併症について説明を受けて少しばかり心配な気持ちがありましたが、そんなものよりこの術後の排尿痛を心配しなければならなかったです。それでも、これもいい経験かと今は思えます。

3 日目もずっとベッドの上にいました。術中は２～３時間、腹臥位で腸骨(左右)へ穿刺するので、日頃から腰痛を患う人は坐骨神経痛など症状を悪化させてしまうそうです。私も術後は下肢に痺れを覚え、寝返りを打つのも苦労しましたが、それはすぐに軽減しました。体が重く点滴も入っているので、動く気にもなれず本ばかり読んでいました。

4 日目無事退院。術後まもなくは「あさって退院して次の日から仕事できるのかな?」という不安に駆られるくらい身体がよれよれでしたが、自分でも予想以上に体調が元に戻りました。手術当時、私は三十歳。世間でいう働き盛りで体力も十分。いい忘れていましたが、ドナー候補者選びで HLA 一致が同等なら年配者よりも若年者、女性よりも男性が選ばれる

そうです。それはひとえに術後の回復が早いからでしょう。

体験談は以上です。

私が骨髄バンクにドナー登録したのは4年前。当時は専門学校に通う学生でした。ドナー登録した動機ですが、「人助けがしたいから」です。なぜそのように思い立ったかは、ある本によるものです。ありがちな話ではありますが、白血病を患う少女、そして主人公の少年。”セカチュー”が流行しましたが、これはまた別の物語です。短い命とわかっていても毎日を懸命に生きる少女。そんな生き様、そして訪れた死に涙し、もしこんな自分でも救える命があるのなら、その一助になれるのならと、迷わずドナー登録をしてきました。

その頃は臨床もろくに知らない学生でしたので、勉強して経験積んで、将来は色々な疾患を治療する鍼灸師になる！というのが夢でした。今もその気持ちは変らず持っています。ただ、勉強をしても臨床を重ねてもいつも思うのは、自分の力のなさです。患者の期待に応えられないとき、自分の非力さを痛感します。学生の頃は、白血病も鍼灸で治療できるのでは？と安易に考えていました。

そもそも鍼灸治療は患者の”感覚異常”や”機能障害”を改善するのが得意であるといわれております。痛み・痺れ・違和感を取り除き、さらには内蔵など体の諸器官の機能調節にも効果を期待できます。しかし器質的な欠陥・欠損には効果を期待できません。

難病は多くありますが、それらの原因・治療法は確立されていないのがほとんどです。そうした患者らに私たち鍼灸師は体調を整えたり、精神的に楽にさせてあげたりとできることは沢山あります。なかには鍼灸治療によって社会復帰されるくらいに回復される患者もいるかもしれません。

いずれにせよ、鍼灸医学も現代医学も患者のため、人のために存在します。私も世の中の医療人の一人として、自分の存在、自分の所作が他人の健康に繋がっていけばと思います。今年は末期患者の呼吸器を取り外した医師、臓器売買・病気腎移植を行った医師など世間で注目を集めました。ただ、彼らは信念を持っていると思います。患者を思う心。患者の家族を思う心。倫理面で批判を浴びるのもわかりますが、方法論を世に問うた、かの医師たちは悪人には思えません。私たち鍼灸師も、患者やその家族を思う心に変りはないです。そして後は結果を示すだけです。

「誰かの命を救いたい」という私の願いは、骨髄移植を行ったことにより果たされました。医療に限らず、「他人のためになる」という行為、心が大事と思います。また学生の頃の話に戻りますが私は昔、腕さえあれば患者はついてくると思っていました。しかし今はそう思っていません。腕が立つに越したことはないですが、まず求められるのは「患者を思う心」です。そういう気持ちがあれば自然と腕も磨くし、人間性も豊かに、周囲の環境への対応力も優れたものになっていくのだと思います。100%の医療はないけれど、それに近づけようとする努力がやがて、理解と信頼を生むと思います。

結びになりますが、7月に私の骨髄を移植した患者からお礼の手紙をもらいました。移植後 3 ヶ月を経てようやく退院され、自宅で療養できているそうです。社会復帰を目指してぜひ頑張ってほしいです。

たった一度の奇跡的な不思議な治療体験

山中 繁夫

鍼灸師となり東京で訓練を受けて自信をつけ、会津で開業して早や34年になろうとしています。本当に楽しくてやりがいのある仕事と思っております。私の治療は身体を手当すると同じく、心の中のストレス等が大きくかかわってきますので、必要に応じて賛美歌のテープ、CD を静かに流しながら、心配、悩み、苦しみを聞いて、そして『聖書ではこういっています。祈りましょう』とか、『あなたの苦しみを神さまに友達のように話して下さい、それが祈りです』と。基本的に心と身体と食事、生活習慣を少しずつ話して納得してもらっております。ま、そんな方法で仕事をしてまいりました。

以前、奇跡のような治療体験をしましたので今回、皆様にお知らせしたいと思い、記憶をたどって書いてみました。

今から32年前、コンビニエンスストアを経営していたＳさんという女性の方を紹介されました。紹介した方は、私と同じキリスト教信者の年配のご婦人で、このＳさんと親せきでしたので色々と説明を受けました。

Ｓさんが48才の時、家族の者から便所から出るといやーなにおいがする。これはおかしいというので、地元の大病院に連れて行かれ「すでに子宮がんで手術はできません」といわれました。本人はケロッとして死ぬという恐れもなく、とても明るい人でした。キリスト教信者のご婦人の影響を受けているせいか、いつも「生きるに時あり、死ぬるに時あり、感謝、感謝」といっていました。病気に対して、大病とは思ってないような気がしました。東京のある都立病院で放射線治療を受けました。私が患部を押して感じた事は、内部が硬いしこりのようになっていて皮膚は黒ずんでいたようです。

この患者さんは朝 7 時 30 分から夜中 1 時、2 時位まで仕事を楽しんで、いつも明るく従業員にも好かれていまいした。「病気のことは苦にしない。死ぬ時は死ぬ」という心の持ち主でした。とにかくちょっと昼に横になって、また行くという毎日のようでした。

とにかくこの親せきの奥さんの影響は強かった。

Ｓさんは末期の子宮ガンなのに痛みもなく、苦しみもないなんて信じられませんでした。でもそういう事あるようです。このようなことは、初めての経験でした。患者さんも日本には昔からある西洋医学、漢方医学、鍼灸医学、この三つの病気に対しての治療法が書いてある赤本を見て、ガンにはお灸がいいと書いてあったからお灸をお願いしますというので、それではと始めました。気が楽な患者さんでした。今にも後にもこんなすばらしい患者さんは出てきません。

治療法はすべてお灸、週２回。治療点は、中脘、曲骨、中極、関元、大赫、身柱、脾兪、腎兪、大腸兪、次髎、三里（足）三陰交

東京の都立病院には５年目で「もういいでしょう、来なくても」といわれたようです。それから31年目まで元気で一日も休むこともなく、疲れた時は身体を休めながら働いておられました。78才まで生きました。

死ぬ一ヶ月位はお灸を休んで、また病院で検査しました。最後は、東京の私たちの

キリスト教団の病院で静かに眠りました。

家族の方、特に娘さんが（埼玉在住）私の所に治療に来られた時、「すごいガンだったのに、ここまで生きられて医者もびっくりしていました」とおっしゃられ、ありがとうございましたと感謝の言葉をいただきました。亡くなられたのは残念ですが、私としても不思議で奇跡のような経験をしました。鍼灸師となってよかったと思っております。

編集後記

今回も無事会報を発行することができました。これも、記事を投稿してくださった先生やこちらからの依頼をこころよくお受け頂き、原稿を書いてくださった先生方のおかげだと感謝しております。この場をお借りして謝意を表させていただきます。

ところで、少しだけ環境問題を考え出した私はミミズを飼おうと思いました。ミミズが逃げないように箱の中で飼い、家庭で出る生ゴミをエサにするのです。生ゴミは減りますし、ミミズのウンチはよい肥料になります。コンポストのように臭いがなく、すぐれた生ゴミ処理機です。ところが寒さに弱く、ミミズの寝床が凍ると死んでしまうのです。そこで、ミミズを家の中で飼ってもよいかと家族に相談しました。しかし、何も返事は帰ってきませんでした。いつか家族にこのエコロジカルな生ゴミ処理法を理解してもらい、ミミズと同居できる日がくるといいなと思っています。(Y)

発　　行　：社団法人福島県鍼灸師会
発　行　日　：平成 19 年 1 月 10 日
発　行　者　：安斎昌弘
事　務　局　：郡山市安積町荒井字上屋敷 65-1　TEL024-947-2367　FAX024-947-2367
編集責任者　：山内隆一
編 集 委 員　：遠藤賢一・樫村由美子・佐藤今一・三瓶真一・竹村裕・田中宗次郎
粒来和正・中沢良平・生江毅・橋本修一・村上文子
印　　刷　：(有)薄井印刷　郡山市笹川 1-122　TEL 024-945-0761
表紙写真撮影：髙崎順子